

工業俱楽部

KAGOSHIMA INDUSTRIAL CLUB

発行／(社)鹿児島県工業俱楽部 企画・編集／広報・デザイン開発委員会 〒892-0821 鹿児島市名山町9-1県産業会館内
TEL099-225-8012 FAX099-225-8020 <http://www.ikic.or.jp> E-mail info@ikic.or.jp



2007
会報：No.38



鹿児島県工業俱楽部

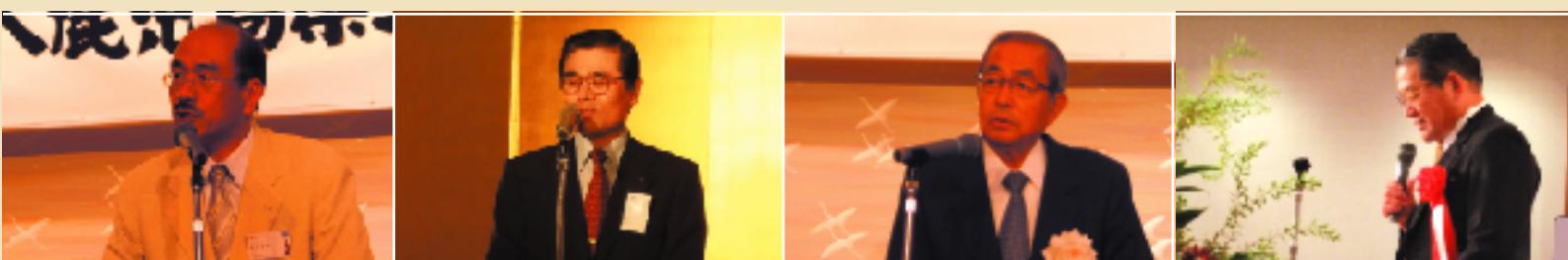
秋季大会

日時・場所：平成19年10月2日
ベイサイドガーデン

講 師：川勝平太氏（静岡文化芸術大学学長）

演 題：「新しい日本の建設—鹿児島から」

10月2日（火）開催の「秋季大会」講演では、講師の川勝平太学長の心に響く圧倒的に素晴らしいお話しに、会場は湧き上りました。



CONTENTS

特集：秋季大会	1. 2	産学官連携	7
ニュース：バイオクラスター／広告	3	ひとくち、ふたくちコラム	8
食にまつわるエトセトラ	4	リレーエッセイ	9
DESIGN HOT NEWS	5	プラザ紹介・事務局より 他	10. 11
かごしま発IT最新情報	6	ねんりんピック鹿児島2008／広告	12

鹿児島県工業俱楽部 秋季大会



川勝学長は、本県のマスコミ、大学、経済人等でできている“有徳塾”的指導教官をしておられ、当然のことながら、鹿児島には特に強い。



◀交流パーティーでも特別
“素敵な笑顔”でご歓談。こ
れにも“感動”！



講演では、“日本文化”に光を当て、“世界に誇れる日本”を強調。キーワードは、文明、美、水、海洋、山、森、緑、自然景観、おもてなし、日本人の宗教観など。これからの日本は、

- ・力の文明を超えて
- ・見られるに値する日本
- ・これらの点で、鹿児島の力は特に大きい
- ・生物、文化の多様性の尊重
- ・外国に攻める時代から、日本に迎える時代

という方向で、鹿児島は日本をリードできる！とエールあり！

2007年3月の静岡訪問14名(工業俱楽部10、鹿大3、県1)に続いて、また静岡県とパイプができました。

2009年3月、Mt.Fuji.Shizuoka Airport(富士山静岡空港)開港に向けて、何らかの連携が探れるかも知れません。

川勝平太氏 プロフィール

【著書紹介】

早稲田大学助手、講師、助教授、教授、国際日本文化研究センター教授を経て、2007年4月より静岡文化芸術大学学長。「美しい国づくり」プロジェクト・企画会議委員。



「美しい国」日本をつくる
(日経ビジネス人文庫)



「美しい文明」をつくる
「力の文明」を超えて
(ちくま新書)



文明の海洋史観
(中公叢書)



富国有徳論
(中公文庫)

news バイオクラスター

“九州地域バイオクラスター計画”が
スタート！

国の施策である“産業クラスター計画”で、全国18番目、九州で3番目の標記計画が、9月27日にスタート。南九州には、全国的にも特に強みのある発酵・醸造技術を活かした食・健康分野を期待。“機能性食品・健康食品”の開発などの具体的なテーマは、“鹿児島バイオクラスター検討会”(代表:川崎暢義)で検討中。

九州経済産業局では、「九州地域バイオクラスター推進協議会」事務局を(財)くまもとテクノ産業財団に置き、会員になるとバイオ関連研究者等ネットワーク構築、調査研究、販路拡大のためのマーケティング支援などについて、優先的配慮の可能性あり。会費は、企業・団体等が6万円/年。

鹿児島大学では、来年1月26日(土)に、静岡県立大学教授で機能性食品開発の第一人者、木苗直秀食品栄養科学部長等を招いて“機能性食品シンポジウム”を計画中。バイオクラスターづくりが熱くなりそう！

バイオ検討会



“**海藻から
バイオ燃料大量生産！**”

当俱楽部では、鹿児島にも豊富にある“海藻”を活用したバイオ燃料大量生産について、(株)三菱総研のノウハウを勉強しながら、新たな事業展開の可能性を検討する動きあり。今後、数回、勉強会を予定。興味のある方は、どなたでも参加を！

地球環境の為に
取組んでいます。



2008年NHK大河ドラマで放映される
「篤姫」。濱田酒造(株)「天璋院篤姫」の
ケースも当社のGフルートで製作。

世界最薄段ボール

- 森林資源の節約
- 完全リサイクル対応エコ素材
- 軽量化でさらにCO2を削減

Gフルート 印刷



- 最新の特殊印刷技術
- レンチキュラー印刷
- 疑似エシボス印刷
- アルミ蒸着紙印刷
- PPシート印刷



南九州で当社だけが
ダイレクトカラー印刷可能。

段ボールはゴミ問題にも貢献!!
約92%の再生紙が利用されており、
日本は世界でもトップクラスです。



Co-operation association

本社/鹿児島市小山町7276-3 TEL(099)238-5525 FAX(099)238-5534
<http://www.unicolor.jp> E-mail:info@unicolor.jp
●串木野営業所●坂元営業所
レンチキュラー印刷技術 [特許出願中]特願2007-196715



“Chinese-free” が教えるもの

藤崎商事株式会社
有限会社ふじさき漬物舗
代表取締役 藤崎 茂実

中国製品に対する不信感から、米国では中国の原材料を使っていないという意味で“Chinese-free”なる新語まで生まれ、中国製品ボイコットの動きもある。そもそも、日本からも一部の製造メーカーが、コストダウンを主目的に、資源の豊富な中国に生産拠点をシフトしたのが始まりである。

現在24品目の食品について、JAS法で原料原産地名表示を義務付けている。最初に義務付けられたのが梅干とらっきょう漬で、平成13年実施から既に6年以上経過している。図1、図2の梅干の一括表示例をご覧頂きたい。商品Aは中国から塩漬原料を輸入した国内の梅干メーカーが作ったもの、謂わばメイドインジャパンの中国品。商品Bは中国の工場で最終製品となったものを貿易商社等が輸入し販売しているもので、正にメイドインチャイナである。当然Aに比べBの方がコスト安で、国内における販売価格もAに比べ4~5割程度安く、主にディスカウントストア等で販売されている。日本で、AとBどちらが安心して食べられるかと聞けば、一般的にはAと答える人が多いと思われるが、売り場で商品の表示だけを見て判断できる人は少なく、実際には同一視されているのが現状である。ちなみに国内産原料を使って国内で加工された製品は、Aの更に2~3倍の価格で、ギフト以外では殆ど流通していない。

それでは、中国製品は全て危なく日本製品は全て安全かと言えばそうでもない。国内で起きたミートホープ社、白い恋人事件がその例であろうし、中国にも信頼できる会社、衛生的な工場が沢山あるのも事実である。飽食の時代の日本人が肝に銘じなければいけないのは、自分や家族が口にする食べ物の是非は、種々の情報を元に、バランス感覚を磨いて、自分で判断するという事だろう。食の欧米化とカロリーの摂りすぎから、成人病予防には昭和30年代の日本の食卓がベストと言われ、むしろ欧米では日本食が広まっているが、日本では、米の需要は減る一方で、食料自給率も遂に40%を割ってしまった。一方、中国国内では北京オリンピック・上海万博の特需で潤っており、急激な経済成長から、近い将来は食料輸入国になるのではないかと予測されており、いつまでも日本に食料を輸出できるとは限らない。急に中国製品は駄目と言われても、原料の国内産地が既に消えたものもあり、またコスト的にビジネスとして成り立たないものもある。

今こそ「食」について国民皆で考えなければいけない時期で、健康、安全、供給、コスト等を、総合的に必修科目として教える場所・機会が必要であろう。

特にこれから時代を担う若い人の為に！

図1.調味梅干 A

名 称	調味梅干
原 材 料 名	梅干、漬け原材料〔食塩、醸造酢、酒精、果糖ぶどう糖液糖〕、調味料(アミノ酸等)、甘味料(ステビア)
原 原産地名	中 国
内 容 量	200g
賞 味 期 限	07.12.20
保 存 方 法	直射日光、高温多湿を避けて保存
製 造 者	株式会社○△食品 和歌山県…

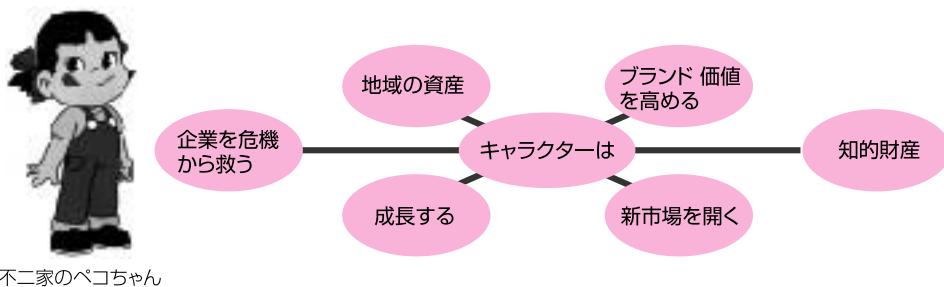
図2.調味梅干 B

名 称	調味梅干
原 材 料 名	梅干、漬け原材料〔食塩、醸造酢、酒精、果糖ぶどう糖液糖〕、調味料(アミノ酸等)、甘味料(ステビア)
原 产 国	中 国
内 容 量	200g
賞 味 期 限	07.12.20
保 存 方 法	直射日光、高温多湿を避けて保存
輸 入 者	株式会社○△商会 和歌山県…

‘キャラクターは企業を危機から救う’

株式会社フォーエム
代表取締役 森重 匡世

企業やブランドが広告キャラクターに頼るということは、何らかの問題を解決したい時である。売り上げが伸びない、そもそも認知度が低い…つまり、頼れるキャラクターとは、企業が抱えるこうした問題を解決する力を持つキャラクターということだ。キャラクターが十分な力を発揮できるように育て、その力を十分に引き出す戦略が求められている。何より大事なのはキャラクターを企業哲学やブランド価値から近い位置に置くことだ。企業の顔、ブランドそのものという意識があつて初めてコストをかけ、知的財産として管理する意識が芽生えるし、時流に流されずに活用するプランにも挑める。頼れるキャラクターとして期待をかけるならば、育て方と使い方を間違ってはならない。キャラクターは消費者の心をつかむだけでなく、社内全員の意識を同じ方向に向ける力が備わっている。(NIKKEI DESIGN 9から抜粋) 代表的な鹿児島発キャラクターは兵六餅であろう。その他県内には多くのキャラクターが活躍しているが、育て方によっては企業の発展に大きく寄与するに違いない。



不二家のペコちゃん

‘元気で長生きの予防健康産業’

超高齢化社会の到来が叫ばれ、国は今後医療負担増により医療会計が破綻することを懸念し、いろいろな施策を講じている。2000年には「21世紀における国民健康づくり」(健康日本21)を始め、国民の健康づくりや予防医療に取り組み、医療制度の改革の一貫として健康増進法も公布した。その中で2020年には法改正により特定検診、特定保険指導が義務化される。特定高齢者と認定された人は検診を受けるよう指導が行われる。

一方、本県も他県に比べて高齢化率(全国で6位)が高く、平成18年度に「鹿児島すこやか長寿プラン2006」の施策が立ち上がった。国民ひとり一人が予防医療を理解し、元気づくりに努力することによって医療費、介護保険費が削減され、國も国民も負担が軽くなり、豊かな長寿社会が築かれることを目指す。日本は世界一の長寿国家と言われているが、大切なことはただ長生きするのではなく、元気な状態で長生きすることが理想である。そのためには企業が積極的に予防的な健康産業に取り組むことが期待されている。当俱楽部会員の中にも健康に関連する商品を製造・販売している企業が多く存在していますが、新たなビジネスチャンスとしてアプローチしてみてはどうでしょうか。

高齢化率の推移



資料：平成17年までは国勢調査等
平成20年以降は国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計（平成14年3月推計）」等をもとに、県高齢者対策課で推計

かごしま発IT 最新事情

「最近のインターネット事情」

株式会社グッドコミュニケーションズ
サービス運用部 竹内 勝幸

「セカンドライフ」「ニコニコ動画」「プロフ」「N G N」「ポットネット」。皆さんこれらの言葉のうち、幾つほどご存知でしょうか。これらはネット業界で最近話題になっている言葉ですが、毎年のように新しい言葉やサービス、概念、あるいは問題点などが出現しており、今なおネットの世界が発展途上であることを示唆しているとも言えます。

ただ一方で、全国インターネット世帯普及率は64%に達して成熟段階を迎えつつあり、全国ブロードバンド(以下BB)世帯普及率も50%(鹿児島県は27%)を越えています。当社の会員に目を向ければ、インターネット利用者の65%が既にBBを利用しており、光回線にシフトしながら利用率は依然向上しています。BBは料金定額かつ快適なネット利用を実現しており、BBの浸透は、利用者のより積極的なネット利用や、活用局面の変化をもたらしています。また、携帯電話の利用時間においては、音声通話時間よりネット利用時間の方が多い傾向が顕著になり、いつでもどこでもネット利用～ユビキタス状況～へ近づきつつあります。

消費者が物品サービスを購入する際には、今や事前にネットで情報収集することは当たり前で、企業のWebサイトや商品の比較サイト・情報交

換サイトが活用されています。よってこの消費者行動からみると、企業のWebサイトは、自社の信用力を高めるのに重要な役割を担いつつあります。現に鹿児島でも自社のWebサイト改善に取り組む企業が増えており、サイト構築を請け負う企業は忙しくなりつつあります。

企業によるインターネット積極利用の方向として「Web 2.0化」が言われていますが、鹿児島での活用は今からの感があります。企業内外活用としてブログ、SNS、検索、マッシュアップなど積極的に使っていくことが、これから求められることでしょう。当社では検索連動型広告を利用してますがその効果は歴然としており加入増に役立っています。また最近の傾向としてコマーシャル等で検索キーワードを告知するのが当たり前となっており、WebサイトのSEO対策(検索エンジン最適化)は必須になっています。

今後も企業のネット活用は重要性を増すばかりです。専門用語を多用いたしましたが是非ネット検索でその意味をお調べください。皆様の企業活動の参考になれば幸いです。



SYNAPSE

シナプス・ステーション／イオン鹿児島店

鹿児島のさらなるネット活用を応援する拠点として、イオン鹿児島SCの3階に、10月6日新規オープン。

中小企業の新連携支援制度のご紹介

株式会社丸松
代表取締役社長 松下 謙一

新連携支援制度は、平成17年4月に施行された「中小企業新事業活動促進法」に伴ってスタートしました。

新連携(中小企業新事業活動促進法では「異分野連携新事業分野開拓」といいます)とは、事業活動の分野を異にする中小企業が有機的に連携し、その経営資源を有効に組み合わせて新事業活動を行うことにより、新たな事業分野の開拓を図ることをいいます。

国は、地域の新連携の取組みを支援するため、全国9ヶ所の地域ブロックごとに新連携支援地域戦略会議事務局を設置しており、九州では中小企業基盤整備機構九州支部に事務局があります。事務局には、新連携支援に特化したプロジェクトマネージャーが常駐し、新連携事業の実施にあたっての事業計画の作成から、経済産業局長の認定を受けるまでプラッシュアップ、さらには認定後の事業の実施・市場化に至るまでの一貫したハンズオン支援を行っています(無料)。

九州地域では平成19年9月末時点で、28件の新連携計画が認定され、26件が事業化を達成するなど、着実に成果が出ています。

また、平成19年10月から中小機構南九州事務所に

もプロジェクトマネージャーを配置し、南九州地域(特に鹿児島県域)の支援体制を強化しています。

すでに連携して事業を開拓する中小企業の皆様には、まずはお気軽に事務局にご相談ください。

中小企業基盤整備機構九州支部
(九州地域新事業創出戦略会議事務局)

中小企業基盤整備機構九州支部

新連携推進課

☎ 092-771-6212
福岡市中央区天神1-14-4(大和生命福岡ビル8F)

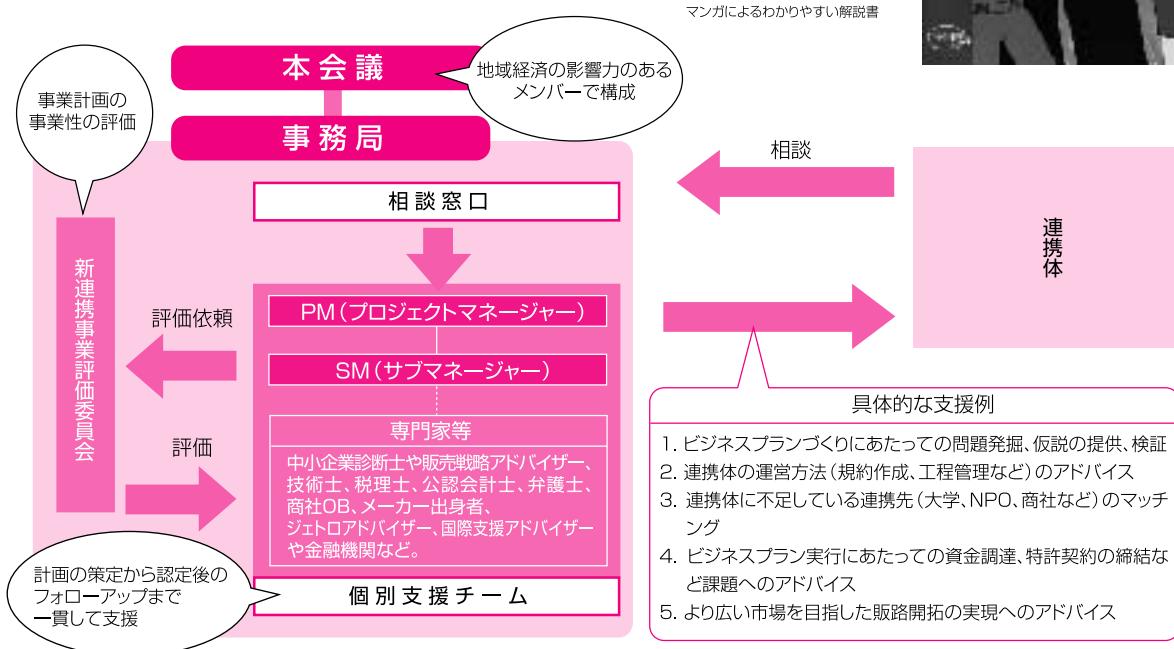
南九州事務所

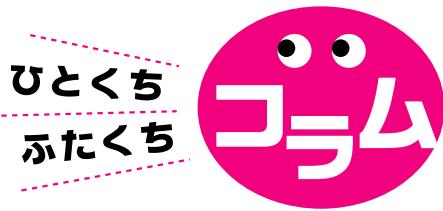
☎ 099-219-7882
鹿児島市東千石町1-38(商工会議所ビル7F)

***事前予約制になっていますので、一度お電話ください。**



マンガによるわかりやすい解説書





藤田先生の ひとつちふたくちコラムより

※人脈を広げるコツ

大人社会を振り返って：長年教育、研究に携わってきた我々研究者の場合でも、学会や研究会、講習会などに参加することにより、多くの仲間と知り合える機会はある。しかし、単純な参加だけでは、人脈を広げるには無理である。反省会（懇親会、意見交換会）に出るノミニケーションは大切。

※積極的な参加と会話が必要

多くの朋友だけでなく、色々な分野の始めての人々とも積極的に会話をを行うことが大切である。
ただ黙ってしきりにメモを取るだけでは、発想は生まれないが多くの会話の中の空気で生まれる。

※野に離されたライオン児になりなさい。

学会や研究会に参加しても同僚、後輩など、仲良しグループと行動を共にしても成果は上がらない。
常に異分野（異業種）や他の大学、企業の方々と積極的に意見交換を行うべきである。仲間内だけで行動しては、己がめざす路は狭くなる。

※必要な情報を得る方法

土曜フォーラム（N H K）等のテレビで放映される番組を見ることや講演会に直接参加し拝聴することも大切であるが、人の出会いの“きっかけ”を持つことは、最良の情報獲得の一つである。

一番良いのは隣、もしくは目の前に座ってもらい、会話をしながら、意見交換や論説を受けること、すなわち「かたりべ」の存在が最高である。語り口やその人の表情の中に多くのことが詰め込まれている。耳だけではなく空気が教えてくれる。

※新しい発想？

多くの企業の場合、事業に直接関係がなければ自由に多くの会合に参加することはあまり多くない。ぜひ事業に関連あるなしに関係なく、積極的に業界の仲間や異業種



鹿児島T L O
取締役 藤田 晋輔

の方々、大学研究者との接触をもって欲しい。

新しい発想を持つためには、多くの文献、雑誌を読みあさることも必要であるが、書物に記載してあることは、そのまま受け取る限り新しい発想はない。ただし、常に「疑問」？を抱き、解決を模索しながら、読み込めばこの限りではない。

※中小企業では新規開発が不可能なのか？

中小企業であれば社長（経営者）自身が開発者であり、そして営業マンを兼ねているために、多忙きわまりない。大企業に比較して小回りは利くが、考えているほど進まない。

例えば、現在小企業の方々と何回かコンタクトをとらせていただいているが、社長だけ、社長と営業担当者、あるいは工場に従事している社員がいるだけである。

弊社のスタッフと面談し新しい発想の提案や、弊社に問い合わせられても、社長がすべてを行っているが故に、連絡が取れない状況に陥る。日常の社業処理に追いまくられているのが実態であろう。このような状況における新規技術開発を行うことは大変難しい。

1人でも良いから開発専従の社員が欲しいところである。それぞれの企業にいくつかの課題を提案しても、これを如何に展開できるか、実行できるかは、開発専従の社員を抱えているかどうかで決まる。

※鹿児島T L Oの活用

県内“ものづくり企業”でも全然出来ないのでなく実行していないだけであると信じている。ここに何かの“きっかけ”があることにより、意外に“産むが易し”と考えて欲しい。

大学の敷居は決して高くない。大学の職員も感情の動物であるから、すべての人が相互に好きであることはない。どうもそりが合わない…、好きになれない…等、個人差はあるが、まずは飛び込んでいただければ、誠に幸いである。

大学の人間は、一般的に世間の会社員に比較すると“はにかみや”であり、己から飛び込んでゆく人は非常に少ない。これの仲人役が鹿児島T L Oである。

いつでも、トビラを叩いて欲しい。

「出会い」がその後の社運、人生を決めることになるかもしれない。



今、想っていることより

株式会社フォーエム
代表取締役 森重 匡世

あるビジネス誌を読んでいたら、常日頃想っているのと同じような記事が目に止まった。工業俱楽部の会員の方々はどう想いでしょうか。一部内容と感想を述べます。

毎日のように全国あらゆるところで、企業の不祥事が発生している。全国あるいは地方のトップクラスのメーカによる品質不良に関する商品の製造販売や、整備不良、欠陥品の回収、介護保険制度を悪用した企業の失墜、特に年金においては社会保険庁自らの不祥事は何を言わんかである。

一方、社会現象とも言うべきか、毎日のようにマスコミで殺人事件を報道し、中でも、親子、親族関係の殺人が当り前のように毎日見せられると鈍感になることが、非常に危険性を孕み怖い。

国、国民一人ひとり何が正しいことなのかと言う基本的な価値観、考え方が薄れていることは確かだ。

企業の中においても、格差社会が一層進展し、その結果、最低賃金のフリーターやニートが増加、過重労働による職場での病気も増えている。そして、職場環境のプレッシャーから家庭、子育ての崩壊も顕在化し、働き盛りの40代男性がネットカフェで寝泊りしている現象は正常とは思えない。また、新卒採用、年功序列の雇用システムが崩れ、安い即戦力を採用する派遣社員が一般的になってきた。地方に進出したある一部上場のメーカの正社員率は15%と言われる。果して、このような状況の中で、多様化した職場をマネジメントする能力を現在の経営者、管理者は持ち合わせているだろうか。価値観のベクトルがバラバラのため、会社に対する帰属意識、運命共同体の意識が非常に希薄になってきている。結果的には、組織の形態を維持していないし、いわば正しい判断や危機対応ができない体制がいつの間にか出来上がり、全部とは言えないが企業の不祥事と関係があるのかも知れない。

1990年代後半から推進された企業改革の成果は顕著に表われ、右肩上がりで多くの企業は不良債権を解決し、業績も回復した。

しかし、その一方で企業や組織の現場では活力が失われ、意欲を喪失した管理者、社員が増えていることも事実である。山のような仕事をこなしきれず、貢献している意識はあるものの充足感がない。能力主義で成果を出せば報われる体制にはなったもののその反面、労働時間は増えた。

中途入社や退職が頻繁に行われ、派遣社員も入れ替わりが早く、社員同志さえ誰が正社員なのか気にしないような組織形態になっている。いろいろな状況をみると、今、改めて経営者の能力が問われているのである。取り返しのつかない状態になる前に、日本型経営をリードしてきた従来型のアナログ的、人間的な側面にターゲットを絞ったマネジメントプロセスを再構築することも大切で、同時にもう一度企業経営の原点に戻ることも必要かも知れない。

一方、私たちはあまりにもモノを作り過ぎ、そして、走り過ぎた社会を再生し、浄化していく仕組みを作っていくなければならないし、人とモノとのGIVE AND TAKEな関係形成が大きなポイントであることを理解することが大事である。企業も国民一人ひとりも「どのような国をつくり、何をつくるのか、何が必要なのか」真剣に考え、行動する時期が到来していることを認識しなければならない。



プラザ紹介

プラザいもづるの活動近況について

プラザいもづる代表 山口 昇

プラザいもづるは異人プラザ(旧85プラザ)、86プラザ、プラザ21などの解散したプラザのメンバーを中心に、平成16年7月に発足したグループで、正式メンバーは11社です。

活動の基本方針は「会員間の異業種情報の送受信とビジネスの創出・展開」です。

運営の基本方針は

1. 例会を毎月第2金曜日(場合によっては第3金曜日)に実施する。
2. 例会は持ち回りで当番世話役がとり行う。

としております。

これにより、例会は世話人のアイデアで勉強会であったり、演奏会であったり、工場見学であったりと、多様な内容となっています。



大きな会社の社長さんも小さな会社の社長さんも、また、社長代理出席の部長さんも和気藹々と交流しております。
このようなプラザいもづるですが、プラザ未所属で興味のある方、入会大歓迎です。

近い例会内容

8月例会

メンバーの元社員さんが独立して音楽活動をやっておられるということで、その方の演奏会をサブとして実施

9月例会

会員の活動近況報告を中心に行ないます。

10月例会

メンバーのグッドコミュニケーションズさんが、イオン鹿児島にシナプス・インフォメーションを開設されたということで、見学と意見交換会として実施



2007年「福祉用具の日」—「福祉用具展&セミナー」 かごしま県民交流センター

体育の日(10/8)に行われたイベント。主催は、県社会福祉協議会、工業俱楽部、日本福祉用具供給協会鹿児島ブロック及び県福祉用具協会。

昨年の「九州福祉用具フォーラムin鹿児島」でノウハウを蓄積した関係者の取組みもあって、展示、実演、講演、セミナーとも充実したイベントとなりました。

講演は、佐賀大学大学院医学系研究科松尾清美准教授。「福祉用具の活用と自立支援」。



車いす実演

企業による新製品の特徴などの説明(大ホール奥の実演コーナー)は、車いすなど、利用者に対する改善提案&PRとして情報豊富!

当時は、平成20年10月25(土)~28日(火)に行われる「ねんりんピック鹿児島2008」の宣伝に、ねんりんピック鹿児島2008実行委員会事務局からも出展。マスコット「さくらじまん」のグッズの製作など利用希望者を募集中とのこと(デザイン使用承認が必要)。



ねんりんピックPR

問い合わせ先

ねんりんピック鹿児島2008実行委員会事務局 県保健福祉部ねんりん推進室

TEL : 099-286-2864 E-mail : nenrin@pref.kagoshima.lg.jp

事務局より

鹿大との連携

鹿大産学交流企画実施委員会('07/9/5)

鹿大と工業俱楽部の連携協力協定に基づく最上位組織である“産学交流促進会議”が7/23に開催。従来の“企画委員会”と“産学交流実施委員会”が統合され、“産学交流企画実施委員会”となった。

9月5日のこの委員会での主な論議は、大学シーズの整理、企業ニーズの把握、企業訪問、マッチング、各学部を通した産学交流促進拡大会議の開催。拡大会議は、全理事、学部長、副学長、工業俱楽部全理事が出席するなど。また、来年1月26日(土)に城山観光ホテルで静岡県立大学木苗直秀教授等を講師とする「機能性食品シンポジウム」を開催予定。

鹿大学生支援委員会('07/9/12)

- ・工業俱楽部実施のアンケート説明
- 1 インターンシップに関するアンケート結果
※受入時期は夏以外でも可あり。7日以上可あり。
- 2 留学生支援に関するアンケート結果
※奨学金給付への協力可あり。住居提供可あり。
アルバイト・就職可多数あり。
- ・受入表明企業など、できるところから少人数でも実施できるよう鹿大、工業俱楽部が連携を。
鹿大は体制を整える。

鹿大産学交流促進拡大会議('07/9/27) 司会:吉田学長

- ・自己紹介、上田副会長による連携の方向説明(課題解決のためのネットワーク、対話の重要性、人材育成など。)
- ・産学交流企画実施委員会報告(愛甲理事) ・学生支援専門委員会方向(中山理事)
- ・意見交換(鹿児島に特化した取組が重要、大学の技術指導無償は苦しいなど)
- ・懇親会(教育学部内郡元南食堂「エデュカ」)

高校卒業予定者の採用枠拡大要請

’07/8/29 県PTA連合会伊地知会長、
県連合校長協会小倉会長等が来所。対応:岩重副会長

来春卒業予定者の就職採用枠の拡大に関する要請あり。



新規会員情報



- 個人会員 愛甲 孝
- 住 所 〒890-8250
鹿児島市郡元1-21-24
- T E L 099-285-3873
- F A X 099-285-3873
- 業種等 鹿児島大学研究・社会連携担当理事



- 個人会員 黒木 樹朗
- 住 所 〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
- T E L 099-285-3281
- F A X 099-285-7037
- 業種等 鹿児島大学研究協力課

現在、産学官連携推進機構の管理部門(研究協力課)で産学官連携等の業務を行っております。外部の皆様方との連携窓口として少しでもお役に立てればと思い、入会させて頂きました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本年1月、鹿児島大学病院の消化器系外科医から研究・社会連携担当理事に就任いたしました。とりわけ工業俱楽部とは包括連携協定締結のご縁もございまして、さまざまな形でご支援ご協力を頂き感謝いたしております。微力ではございますが、大学と工業俱楽部との橋渡し役としてお手伝いできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



- 新規会員 ひさご
- 住 所 〒891-0507
鹿児島県指宿市山川入船町19-2
- T E L 0993-34-0794
- F A X 0993-34-0364
- 業種等 天然活魚料理店

天然活魚のみを扱っています。特に鰯は近海の1本釣り鰯を刺身、タタキであつかっております。地元の食材を主に料理にももり込みまして、ささやかではありますが、地産地消を心がけております。皆様の御指導を仰ぎたく入会させていただきました。よろしくお願いします。

第21回全国健康福祉祭かごしま大会 ねんりんピック鹿児島2008

平成20年10月25日㈯～28日㈬

かごしまで 元気・ふれ合い・ゆめ噴火

ねんりんピックとは？

○「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、高齢者の健康づくりや生きがいづくりの高揚、社会さんかへの促進を目的とした全国規模の祭典です。

○60歳以上の高齢者を中心とするゲートボールや卓球、テニスなどのスポーツ競技、美術展や音楽文化祭などの文化イベント、健康福祉機器展、ふれあい広場など、あらゆる世代の人たちが参加し、楽しめます。

○厚生省創立50周年を記念して昭和63年にスタートし、毎年開催されます。

2008年は鹿児島にて開催！ みんなで、盛り上げていきましょう。



「さくらじまん」

問い合わせ先

ねんりんピック鹿児島2008実行委員会事務局 県保健福祉部ねんりん推進室

TEL : 099-286-2864 E-mail : nenrin@pref.kagoshima.lg.jp

日常生活を「快適・安全・便利」にする生活環境の実現に向けて、栄電社は走り続けます!!



総合電気サポートシステム：TESS（テス）

- 24時間365日、いつでも緊急出動できる態勢を完備
- あらゆる電気・通信に関する**保守点検のご相談**にお応えします！

FA制御・計装工事

- あらゆる**システムを経済的・効率的に**生かす技術



環境浄化バイオ処理事業

- 鉱物油分解
- 化学物質分解
- 净化槽汚泥減量化
- 土壌汚染浄化 など

電気通信工事業：国土交通大臣許可(特-16)第18203号
機械器具設置工事業：国土交通大臣許可(特-19)第18203号

E 株式会社 栄電社

本社／〒890-0056 鹿児島市下荒田1丁目36番24号
TEL (099)-250-3348 FAX (099)250-3374
(U R L) <http://www1.bbq.jp/eidensha/index/>
(E-mail) info@eidensha-kk.co.jp